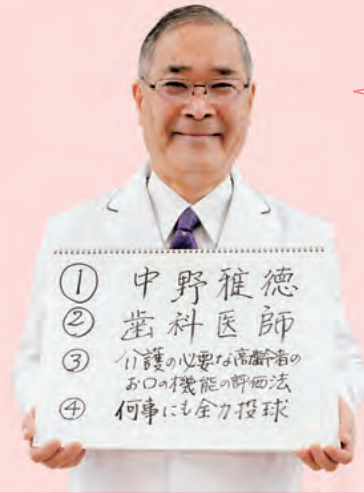


Q 口腔保健学科への進学を希望されている方へ、メッセージをお願いします。

皆さんにとっては当たり前の「口からおいしく食べること」は、高齢者では当たり前ではなく、生活の質を左右する最も重要な要因の一つとなっています。幼児期からの食育や虫歯・歯周病の予防は歯科衛生士の仕事であり、これらは生活習慣病を予防し「一生口からおいしく食べること」を支え、寝たきりを予防します。日本一の設備、充実したカリキュラム、親切熱心な教員の3拍子そろった本学科で新時代をリードする歯科衛生士をめざしましょう。



高齢になって食べる・飲み込む機能が衰え、口の中が不潔であると誤嚥性肺炎を引き起こしやすくなります。歯科の専門外の人でも、口の機能や衛生状態を判定できる評価法を開発しています。

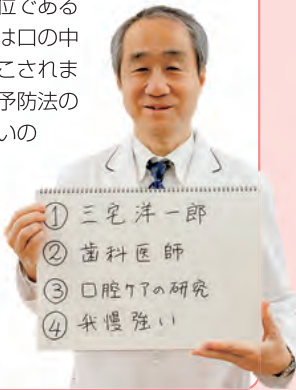
学科長 中野 雅徳 先生

私たちはこんな研究をしています！

氏名 研究内容  
資格 チャームポイント

三宅 洋一郎 先生

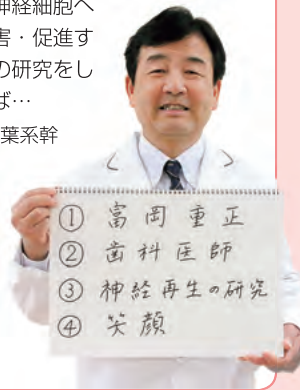
高齢者の死因の上位である誤嚥性肺炎の多くは口の中の細菌によって起こされます。誤嚥性肺炎の予防法の中で最も効果が高いのが口腔ケアです。どうすればより効果的な口腔ケアが行えるかについて研究をしています。



- ① 三宅 洋一郎
- ② 歯科医師
- ③ 口腔ケアの研究
- ④ 我慢強い

富岡 重正 先生

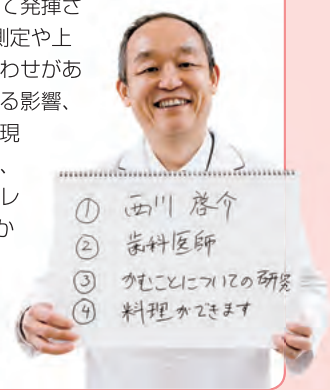
組織幹細胞から神経細胞への分化誘導を阻害・促進する因子についての研究をしています。例えば…  
・麻酔薬が骨髄間葉系幹細胞から神経細胞への分化に与える影響  
・分化誘導後の神経細胞に対する圧負荷および低酸素負荷の影響



- ① 富岡 重正
- ② 歯科医師
- ③ 神経再生の研究
- ④ 笑顔

西川 啓介 先生

歯ぎしりによって発揮される咬合力の測定や上下の歯のかみ合わせがあごの動きに与える影響、あごの動きを再現する装置の開発、かむこととストレスの関係など「かむこと」を対象にした多方面の研究を行っています。



- ① 西川 啓介
- ② 歯科医師
- ③ かむことへの研究
- ④ 料理が大好き

藤澤 健司 先生

あごの腫瘍を切除した後や、インプラントを埋め込むのに十分な骨がない場合などに骨の移植が必要となります。これまでは自分の骨を移植していましたが、それに代わる新たな人工骨開発のための研究を行っています。



- ① 藤澤 健司
- ② 歯科医師
- ③ 新しい人工骨の開発
- ④ おもしろいところ

吉岡 昌美 先生

お口の健康と糖尿病は密接な関係があり、共通のリスクファクターがあると言われています。現在、糖尿病性腎症に関連する口腔環境要因の解明と、重症化予防のための歯科保健指導手法の開発に取り組んでいます。



- ① 吉岡 昌美
- ② 歯科医師/社会福祉士
- ③ 糖尿病性腎症重症化予防の研究
- ④ 歯ぐきも健康

篠原 千尋 先生

安心・安全な医療を提供するためには十分な訓練が必要です。臨床実習前の学生や現場で活躍している歯科衛生士、歯科医師などが技術や態度をトレーニングでできるプログラムを患者ロボットなどを使って開発しています。



- ① 篠原 千尋
- ② 歯科医師
- ③ 教育プログラムの開発
- ④ 何事もよく食べます

中江 弘美 先生

高齢者を対象に、咀嚼・嚥下機能の維持・向上を目的に「健口体操」DVDを活用した支援プログラムの有用性に関する研究と、機能的口腔ケアサービス向上の支援プログラムの開発を行っています。



- ① 中江 弘美
- ② 歯科衛生士
- ③ 「健口体操」の効果に関する研究
- ④ 包容力

十川 悠香 先生

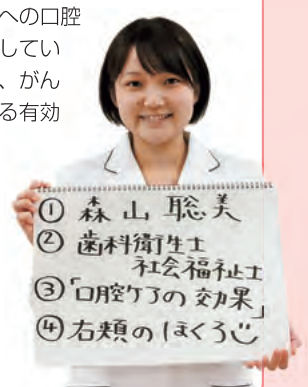
造血幹細胞移植などのがん化学療法患者の有害事象である「重症口腔粘膜炎」や「発熱性好中球減少症」をテーマとして、歯周病原菌を含めた病原細菌やさまざまな口腔環境との関連性の研究に取り組んでいます。



- ① 十川 悠香
- ② 歯科衛生士
- ③ がん治療と口腔細菌の研究
- ④ 誠実

森山 聡美 先生

化学療法患者さんへの口腔ケアの効果を研究しています。口腔ケアが、がん治療をサポートする有効な手段の一つであることは多くのデータで明らかにされています。現在は口腔ケアと漢方薬の併用に注目しています。



- ① 森山 聡美
- ② 歯科衛生士 社会福祉士
- ③ 「口腔ケアの効果」
- ④ 右頬のほくろ